

文化とコミュニティをESDをつなげる

日本では、ユネスコスクールのネットワークを通じて持続可能な開発のための教育(ESD)を推進しています。環境保護、ゴミ管理、自然資源の復元など、実践的な学びに焦点を当てています。また、ユネスコスクールは地域社会やさまざまな組織と協力し、持続可能な開発における問題とその役割を生徒たちが理解できるように尽力しているようです。日本のアプローチは、教育と地域コミュニティを繋げた結果を示しており、地球に責任を持つ社会を作り出すことができます。この考え方をタイで適用することは、地域単位および国単位で持続可能な開発を促進するのに役立ちます。

教育機関では生きた経験を重視する

日本の教育を実際に体験しました。日本の教育課程では、環境、文化、地域社会との協力についての知識をつなげることに焦点を当てています。学校で行われた活動には、生徒たちによる歓迎パフォーマンス、授業への参加、知識の学び合いなどがあり、これらは学校単位で始まる持続可能な開発へのアプローチを反映しています。

ネットワーク作りと学び合い

さまざまな活動における意見交換により、参加者は自身の文脈にESDの概念をあてはめることができました。例えば、学校での実践的な活動を生み出したり、学習課程において地域社会での役割を持つように促したりすることができそうです。

本活動で新たに得た視座

日本のアプローチは、教育が社会変革を促進する力を証明しました。学校にESDを取り入れるには、さまざまな組織からの支援と地域社会との協力が必要です。タイにおいては、各地域の諸問題に対応したカリキュラムを開発することと文化理解を促進することに焦点を当てるべきです。さらに、協力関係にある学校同士の国内および国際的なネットワークを作ることが、タイでの持続可能な開発に資する重要なお手本になります。





アクションプラン

活動後の行動指針

英語科目に持続可能な開発のための教育 (ESD) を取り入れる

- 目的**
1. ESDに関連するコンテンツを通じて英語力を促進する。
 2. 環境に対する意識と持続可能性を生徒たちに根付かせる。
 3. SDGsに沿った実践的な学習活動を作成する。

準備 ESDに関連した英語の授業を計画する:

- 環境保護に関する記事を読むなど、ESDのコンテンツと英語のトピックを取り入れた授業計画を作成する。
- 可能、リサイクル、生物多様性、再生可能エネルギーなど、ESDに関連する語句表を作成する。

実行 英語の授業にESDを統合する:

リーディング: SDGsに関する英語の記事やニュースを生徒たちに読ませる。例えば、プラスチックごみの削減やクリーンエネルギーの使用について。

ライティング: “How can I make my school more sustainable?(学校をより持続可能にするにはどうすればよいか)” というテーマでエッセイ(100~150語)を書かせる。

リスニング: 環境保護に関する英語のビデオを使用し、理解度を測るための練習問題を行う。

スピーキング: 例えば “Should single-use plastics be banned in schools?” (学校で使い捨てプラスチックを禁止すべきか?) というテーマを議論する。

“ESD 英語の日” プロジェクト

生徒たちは展示会を開き、学校での環境問題とその解決策を英語で発表します。また、「議論と発表」の活動を実施し、生徒たちは自分で考えた環境保護プロジェクトについて英語で議論し、発表します。

評価方法 学習活動の評価と生徒たちの学びの振り返り

ESDに関連する内容の英語試験を実施する。

生徒の書く力と話す力をさまざまな活動で評価する。

生徒は英語の授業でESDを学ぶことのメリットについてのアンケートに答える。

教職員会議にて結果をまとめ、改善するための計画を立てる。

期待される結果 生徒はESDの知識とともに英語力を伸ばせる。

生徒はクリエイティブな文脈で英語を使用できる。

生徒は持続可能な開発のための英語の重要性を認識できる。